

分科会：テーマ4「市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち」をどう描くか

～健康・福祉・医療・人権～



討論のポイント

- (1) 在宅福祉、在宅医療について
- (2) 仕事と子育ての両立について
- (3) バリアフリー社会について
- (4) その他

各意見の概要

- (1) 在宅福祉、在宅医療について：23件

<p>・欲しいサービスを欲しいときに受けることができる体制になっているか。また、サービスを受けるためのコミュニケーションが取れているか。</p>
<p>・一人ひとりが自分にどんな支援をしてほしいかを自らの考えを言える自立した市民になるためには、子どもころから人権意識を育てていく必要がある。</p>
<p>・ボランティア活動や地域力のアップには人育てが重要であり、その部分は行政が主体的になって行うべきである。</p>
<p>・医療・福祉に市民が関心を持つためには、知識をもった専門職がもっと活動していくべきだが、活動を行うきっかけが必要である。きっかけ作りは行政主体でおこなって欲しい。</p>
<p>・個人がどこで最期を迎えるか自由に選択できる環境づくり。地域に訪問看護のしっかりした体制があるまちづくりが必要。</p>
<p>・一人暮らしが増えている。三重の市営住宅で孤独死が2名出た。</p>
<p>・高花平には、65歳以上の方が33%いる。一人暮らしの方も約180名いて、孤独死も出ている。地域でどうコミュニティを作るかが課題。</p>
<p>・ボランティアサークルを立ち上げたいと思っている。市営住宅の一人暮らしの人の安否確認のため、黄色いハンカチ運動をしようかと案が出ている。</p>

<p>・独居世帯の方の安否確認のための鍵をどう管理するかが問題。以前に、市営住宅在住の方の安否確認ができず、市営住宅課に鍵を借りようとしたが市営住宅に鍵は無く、結局2階から入ったことがある。</p>
<p>・4年間、在宅ボランティアをやっていた。地域でつながることが必要。年齢に関係のない助け合いが出来てくる。</p>
<p>・地域ネットワークを構築し、向こう3件両隣の関係を築いていくことが大事。</p>
<p>・独居老人等の問題をどう皆さんに伝えていくかが課題。</p>
<p>・地域でリーダーとなって活躍する人たちが、困っていることを話し合う場所がない。地区市民センターが先頭になって、各地域の特色に合わせて、市職員も交え話し合う場をもうけてほしい。地域に根付いた活動は、市役所ではできない。出先機関にこそできる役割である。</p>
<p>・地区市民センターを拠点とすることは良い。</p>
<p>・市営住宅の入居者募集には、高齢者枠がある。もともと高齢者が多いところにさらに高齢者が増えて、地元は大変である。</p>
<p>・民生委員やマネージャーの中には、熱心な人とそうでない人がいて、役に就いている人でも温度差があるように感じる。</p>
<p>・意思を持って活動するNPO的指導者も必要なのではないか。</p>
<p>・自分には、まだ在宅医療も在宅福祉も必要ではないが、自分が動けるうちにやっておこうと思い、ボランティア活動をしている。</p>
<p>・医者にかかりたくても、老老介護で交通手段がないなど、状況的に難しい家庭がある。</p>
<p>・在宅医療について、往診してくれる開業医がほとんどいない。</p>
<p>・今日の話し合いで、孤独死の存在をはじめて知った。</p>
<p>・大勢の人が一人暮らししている事実を知らなかった。</p>
<p>・テーマがぶれている。今日は、在宅福祉・在宅医療の話のはずでは。地域福祉に話ばかりになっている。地域福祉について、どういう線引きをしているか。</p>

(2) 仕事と子育ての両立について：21件

<p>・NPOとして学童保育をやっている。本来、学童保育は、仕事の間、子どもを見ることができないため預けているにもかかわらず、運営は保護者で行わなければならない。働く保護者を助けるための制度なのに、働く保護者に大きな負担がかかっている。運営等にもっと行政が関わるべきではないか。このままでは、働く保護者がつぶれてしまうのでは、と危惧している。</p>

<p>・以前、児童福祉課の職員が、男性職員には育児休業を取らせられないと言っていた。</p>
<p>・仕事と子育ての両立というのは、女性が働き続けながら子育てをできるようにするという。働き続けられないというのなら、職場に問題があるのではないか。政策的に市が働きかける必要があるのではないか。</p>
<p>・今回のテーマは、「仕事と子育ての両立」で、「女性の仕事と子育ての両立」ではない。もちろん、女性が働きながら子育てをしていくという環境整備も大事だが、男性の家事育児参画にも注目してほしい。男性は、仕事と育児を両立したくても、長時間労働でその希望がかなわないということもある。総合計画は、今後10年間の計画なので、ぜひ男性の子育て参画が進むよう考えてほしい。</p>
<p>・育児休業について、育児休業中に代替職員が入ることがある。その場合、復職した際に自分の席があるか不安。一般企業で育児休業を歓迎できるのか。</p>
<p>・市職員の職員研修に市民グループとしてワークに参加したことがある。市職員は、頭では理解しているが、実際の行動等はできていないと感じる。</p>
<p>・今回のリーディングプロジェクトについても、紙だけのものに思えてしまう。</p>
<p>・新総合計画では、四日市市はいろいろな企業に働きかけをしていただきたい。そのためには、まず行政が動かなければならないと思う。ワークシェアリングを本格実施している企業等はまだまだほとんどいない。四日市市が率先してワークシェアリングに取り組むなど、四日市市がひとつ飛びぬけるような施策を考えてほしい。</p>
<p>・桜地区では、幼・保・小・中・高を含めて連携プレーを取りながら、子育てで孤立しないような取組をしている。</p>
<p>・保育園と幼稚園であそぼう会を定期的を開催している。ママ同士のつながりもできるし、連携プレーにもつながる。</p>
<p>・保育園、子育て支援センター等の遊ぼう会の情報は市のホームページ等でも紹介されるが、NPO団体等が開催する子育て支援に関する情報は、市のホームページ等ではなかなか紹介されない。NPOが事業をするとき、市から運営費補助はまったくでないの、NPOのメンバーは無給で活動している。同様に子育て支援をしているのだから、ホームページで紹介していただくなど、もう少し支援してほしい。</p>
<p>・昨年、NPO法人四日市男女共同参画研究所が、市からの委託で「本当にほしい子育て支援」という5回の連続講座を実施した。そのとき、子育て支援で本当にほしいものとして、各地域にある集会所を開放し、子育て世代や高齢者世代のたまり場の場所がほしいとの意見がでた。時間に余裕のある高齢者の方々が、常にどなたか店番のようにいらっしゃって、子育ての悩みを相談したり、遊んだりできる場がほしいとのことだった。</p>
<p>・コミュニティバスがあれば、子育て世代も高齢者も助かるのではないか。</p>
<p>・子どもは、四日市にとって必要な存在。未来の光である。子どもは、親が働いていても大きく育っていく。子どもを産んだら、社会が、そしてみんなが育てていくから安心して産みなさいといえるようにしたい。行政ももっと積極的に子育てに関わっていくべき。</p>
<p>・行政は、少子化対策として、子育てに関する予算をもっと取ってほしい。</p>

・ 幼少期から四日市市に愛着を持てるような環境づくりを！
・ 障害児の在宅生活の支援を行うところが無い、特に中学生以上の障害持つ生徒たちへの支援が全く無い状況である。
・ 今後はワーク・ライフ・バランスを念頭においた社会体制づくりが重要である。
・ 社会・地域全体で子育て支援を行っていく社会を目指すべき。
・ 専門職がいろいろなライフステージを経ても辞めずに働ける環境づくりをして欲しい。
・ 地域が子どもと親を支える社会を目指す。

(3) バリアフリー社会について： 13 件

・ 本当の意味で障害を持つ人にとってバリアフリーになっていないのでは？もっと障害を持つ人の意見に耳を傾けるべきである。
・ 市は、特定の人からの要望だけを聞くのではなく、もっと市民の意見を吸い上げる仕組みづくりをしてほしい。
・ 市施設はスロープ等ができるなど、ハード面のバリアフリー化が進んできている。
・ 四日市市は、他都市と比べて点字ブロック道路が少ない。三重県全体も他県と比べると少ないと思う。四日市市は身障者に優しくないまちだと思う。
・ 健常者の眼から見て、市中心部は整備されてきたが、中心部以外の整備はまだまだだと思う。人の集まる場所を積極的に整備してほしい。
・ 公共施設の周辺は進んでいるが、各地域までは進んでいない。
・ 道路づくり、家づくりについてももっとバリアフリー化を!
・ ハード面のバリアフリーは、市民が意見を出せば行政が直してくれる。行政がしてくれないところは、行政に頼らず、自分たちで直したらいい。
・ ハード面のバリアフリーも必要だが、心のバリアフリーの方がもっと重要である。
・ 精神面のバリアフリーは難しい。困っている人にすぐ手が差しのべられることも重要。行政に啓蒙運動をもっと取り組んでほしい。
・ 子どもをベビーカーに乗せ公共交通機関を利用するの買い物は不便な点が多い。
・ ノンステップバスの利用は予約制になっているので、気軽に利用できるようにしてほしい。

・子育てしやすく、高齢者が生活しやすいまちはその他の市民にも住みやすいまちであると思うのでそれを目指して欲しい。

(4) その他：16件

・地域の絆をつないでいけるような地区市民センターのあり方を考えた方がよい。
・地域の中に若いママを支援する場があった方がよい。
・「産んだら地域が育てる」という考え方がよい。地域で上手くいっている取組を市取り上げるようなことがあってもいいのではないか。
・「地域が何をするか」と「行政は何をサポートするか」ということを明記することが大事。
・人権を本当に大切にしようという計画なのか疑問である。
・子どもの権利を大切にするという事項を計画にいれて欲しい。
・計画全体について子どもは常にサービスを受ける対象として取扱われ、全て大人目線で表現されている。
・三重県は今、子ども条例を作っている。四日市市も子ども条例を作ってほしい。
・今日、このような意見を言う場に高校生たちも参加している。子どもたちに意見を言う場だけでなく、物事を決定する場にも参画させてほしい。
・この10年間の総合計画は、途中で市民が進捗状況を確認できるような仕組みを設けてほしい。
・実施計画のチェックを誰が行うのか、公表してほしい。
・保護費と年金について、保護費でカラオケに行く人もいれば、年金でぎりぎりの生活をしている人もいる。これらについては、一度考える必要があるのではないか。
・市民活動が行いやすい環境整備を行政は行ってほしい。(例えば、施設が気軽に借りられる等)
・子育てや市民参加へのきっかけは魅力ある講座等の開催も有効。
・魅力ある講座を企画できる職員の存在が重要である。
・大学との協働での継続的な講座の開催も有効ではないか。